

国東市体力向上アクションプラン(令和2年度版)

1 体力の状況

ア 平成31年(令和元年)度体力・運動能力等調査結果(県調査)

・昨年度に比べ、中学校は全国平均を上回っている項目の割合が80%以上を維持できたが、小学校が50%を下回った。

調査項目	男子		女子		男子		女子	
	国	市	国	市	国	市	国	市
小1	○	○	○	○	○	○	○	○
小2	○	○	○	○	○	○	○	○
小3	○	○	○	○	○	○	○	○
小4	○	○	○	○	○	○	○	○
小5	○	○	○	○	○	○	○	○
小6	○	○	○	○	○	○	○	○
中1	○	○	○	○	○	○	○	○
中2	○	○	○	○	○	○	○	○
中3	○	○	○	○	○	○	○	○

※○は、国東市平均が全国の平均を上回っているもの

H30 全体76.4%(110項目/144項目)
小学校:74.0%(71/96)
中学校:81.3%(39/48)

H31 全体56.9%(82項目/144項目)
小学校:44.8%(43/96)
中学校:81.3%(39/48)

イ 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

○生徒・学校質問紙調査結果

調査項目	小5男子		小5女子		中2男子		中2女子	
	国	市	国	市	国	市	国	市
運動への愛好度 好き	73	78	55	45	64	78	48	64
やや好き	20	18	31	39	25	17	31	23
部活動・スポーツ少年団や 地域スポーツクラブへの所属状況	68	73	47	52	77	88	59	66
朝食の有無 朝食を毎日食べる	83	83	83	86	81	84	78	75
1日の睡眠時間 8時間以上	70	67	76	85	28	21	23	21
6時間未満	3	3	2	1	9	6	10	3

※は、国東市平均が全国の平均を上回っているもの

・愛好度については「好き」の割合が小5男子、中2男子、中2女子で全国平均を上回った。
・部活動やスポーツクラブの所属状況は、全国平均を上回っている。
・朝食や睡眠時間などの生活習慣については、全国平均を上回っている項目が多いが、朝食を毎日食べる割合が昨年度より減少している。

ウ 当該市町村の児童生徒の特徴的な様子

・平成31年度の中学校では、全国平均を上回っている割合を維持し、県平均や昨年度の国東市の割合を上回った項目の割合が増えた。
・小学校では、昨年度と比較して、平均を上回った項目の割合が減少している。
・生活習慣については、全国調査や県調査の両方とも平均を上回っている項目が多いが、朝食を食べる割合が昨年度より少し減少している。

2 平成31年(令和元年)度の取組の検証

平成31年(令和元年)度の指標	達成状況・成果等
達成指標 ○(県調査において) 体力総合評価C以上の児童生徒の割合 小学校男子 83.8%以上 小学校女子 86.7%以上 中学校男子 85.1%以上 中学校女子 96.5%以上 ※H30・小学校男子 81.8% 小学校女子 84.7% 中学校男子 83.1% 中学校女子 96.1%	○(県調査において) 体力総合評価C以上の児童生徒の割合 小学校男子 74.6%【未達成】 小学校女子 81.7%【未達成】 中学校男子 86.1%【達成】 中学校女子 98.3%【達成】
○(県調査において) 運動が「好き」「やや好き」な児童生徒の割合 全体 88.9%以上 小学校男子 90%以上 小学校女子 86.7%以上 中学校男子 93.8%以上 中学校女子 85.1%以上 ※H30・全体87.9% 小学校男子 89% 小学校女子 85.7% 中学校男子 92.8% 中学校女子 84.1%	○(県調査において) 運動が「好き」「やや好き」な児童生徒の割合 全体 87.0%【未達成】 小学校男子 92.9%【達成】 小学校女子 85.9%【未達成】 中学校男子 87.1%以上 中学校女子 79.7%【未達成】
取組指標1 ○体力・運動能力等調査結果において明らかになった自校の課題において重点項目を定め、課題解決につながる運動を全校一貫実践や体力アップチャレンジに取り入れ、成果のあった学校15校/15校 *成果・重点項目において全国平均を上回る項目が増加すること *H30・未調査	11校/15校【未達成】
取組指標2 ○運動が「あまり好きでない」「きらい」な児童生徒に焦点をあてた体育授業の工夫・改善を行った学校・15校/15校 *H30・未調査	13校/15校【未達成】

【総括】
 中学校では、体力総合評価C以上の生徒の割合が昨年度以上となり、中3女子は100%を達成した。体力総合評価C以上の割合が高かった中学校女子であるが、愛好度80%以下という実態がある。調査結果において明らかになった自校の課題に対して、課題解決につながる実践をした結果、国東市の課題であった項目が改善できているが、成果があった学校の割合は73%であり、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。特に意欲面と技能面に課題のある児童生徒の体力向上の取組が必要である。

3 平成31年(令和元年)度の取組状況

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動(市教委)

1)アクションプランの周知、体力向上プランと一校一実践への指導・助言
 ・適宜学校ごとに行った検証について指導・助言
 2)体育専科教員、中学校体力向上推進校での授業実践の提案
 ・運動量を確保しつつ、話し合い活動や助け合い活動を取り入れた楽しい体育の授業を提案
 3)家庭や地域における運動習慣の企画立案
 ・国東市医療保健課と連携した「健康チャレンジ」(8月・11月)の実施

《学校》
 1)体力向上に向けた取組(一校一実践)の工夫・改善
 ・前年度の課題から児童生徒の実態に応じた内容での取組
 2)体育授業における、話し合い活動や助け合い活動を取り入れた授業実践
 3)体育授業の導入で行う体力アップチャレンジ(基礎体力づくり)の改善・実施
 4)家庭や地域における運動習慣確立の推進
 ・PTA等を利用し望ましい運動・生活習慣について保護者へ啓発
 ・健康チャレンジの取組周知
 ・運動習慣に課題のある児童生徒を把握し、学級担任や養護教諭と連携して児童生徒及び保護者に対し、健康づくりのために具体的な提案
 5)中学校部活動で週3日以上体力アップチャレンジ(基礎体力づくり)の実施

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動(市教委)

1)小学校2校に体育専科教員を配置し、配置校及び訪問校における取組の推進
 授業公開・実践発表の実施(授業公開は年間2回)
 2)中学校体力向上推進校を指定し、取組の推進
 授業公開・実践発表の実施(授業公開は年間1回)
 3)年間2回(5月・2月)の体育主任会議を実施
 ・市全体の体力状況説明・効果的な指導法や優良事例紹介
 体育専科教員による実技研修

《学校》
 1)体力向上に向けた取組の充実を図るための体育環境の工夫・改善
 2)体力向上に係る校内組織体制の確立と充実
 ①一校一実践・体力アップチャレンジ等について、体育主任が各学校の調査結果等による児童生徒の実態に即した内容で企画・立案
 ②校内の体育保健組織や運営委員会において審議し決定
 ③全教職員による実施
 3)部活動における体力向上に係る校内組織体制の確立と充実
 ①体育主任による各学校の調査結果等による生徒の実態分析
 ②分析を受けて各部活動担当が所属生徒の実態に即した内容での体力アップチャレンジの実施

4 課題(令和2年度に向けて)

一校一実践や体力アップチャレンジに課題解決につながる運動を取り入れたことで、特に、8項目の中で国東市の課題であった小学校「長座体前屈」、中学校「50m走」「立ち幅跳び」は指導の工夫で改善している。しかし、昨年度良かった項目が下がっている実態がある。→引き続き、各校の重点項目を定め、本年度同様に課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。

・昨年度よりも体力総合評価C以上の生徒の割合が増えた中学校について、昨年度の全国調査質問紙から、「振り返り活動」を行っている割合が全国平均よりも30%以上高いことがわかった。「話し合い活動」や「助け合い活動」を全学校が7割以上実施できているが、9割以上実施できた学校は40%であった。このことから引き続き「話し合い活動」「助け合い活動」に加えて「充実感や達成感を実感できる振り返り活動」の時間を設定し、技能面で課題のある児童生徒が「わかった」「できた」と実感できる個別の支援の充実が図られた体育の授業を一層推進し、愛好度と体力の向上につなげていきたい。
 →一定の運動量を確保しつつ、「話し合い活動」「助け合い活動」と「充実感や達成感を実感できる振り返り活動」を取り入れた体育の授業改善に取り組んでいく必要がある。

	男子		女子	
	国東市	大分県	国東市	大分県
小1	73.6%	80.6%	71.4%	82.5%
小2	77.7%	80.4%	81.5%	83.0%
小3	66.7%	83.2%	91.3%	86.8%
小4	80.8%	82.0%	80.2%	86.3%
小5	69.6%	80.1%	82.9%	85.0%
小6	77.8%	80.8%	81.9%	85.5%
中1	76.3%	69.9%	98.6%	93.6%
中2	89.1%	79.4%	97.6%	91.3%
中3	93.5%	84.7%	100%	88.5%

※は、国東市の割合が大分県の割合を上回っているもの
 ↑↓は、前年度(同集団)と比較した割合の変化

5 令和2年度の目標及び指標

【目標】

- 1)県体力・運動能力等調査において、体力総合評価C以上の児童・生徒の割合を増やす。
- 2)意欲面・技能面で課題のある児童生徒が充実感・達成感を持てる体育授業の工夫・改善を進め、運動への愛好度を高める。

達成指標

○(県調査において)
 体力総合評価C以上の児童生徒の割合
 小学校男子 75.6%以上
 小学校女子 82.7%以上
 中学校男子 87.1%以上
 中学校女子 98.3%以上

※H31・小学校男子 74.6%
 小学校女子 81.7%
 中学校男子 86.1%
 中学校女子 98.3%

取組指標

○(小学校)
 体力・運動能力等調査結果において明らかになった自校の課題において重点項目を定め、課題解決につながる運動を、原則週3日以上一校一実践に取り入れる。また、体力アップチャレンジにも課題解決につながる運動を取り入れる。

○(中学校)
 体力・運動能力等調査結果において明らかになった自校の課題において重点項目を定め、課題解決につながる運動を、原則週3日以上一校一実践や体力アップチャレンジに取り入れる。

※体力アップチャレンジとは、体育授業や部活動の中で行う課題解決につながる基礎体力づくりトレーニング
 ・平成31年度の調査結果から自校の課題を明らかにし、全職員で共通理解する。
 ・運動が「あまり好きでない」「きらい」な児童生徒と体力総合評価D・Eの児童生徒の実態にあった効果的な取組となるよう工夫・改善していく。
 ・国東市の課題は、小学校「上体起こし」「反復横とび」、中学校「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」である。

○意欲面・技能面で課題のある児童生徒が充実感・達成感を持てる体育授業の工夫・改善に取り組む

・運動が「あまり好きでない」「きらい」な児童生徒と体力総合評価D・Eの児童生徒を把握・分析し、該当児童生徒が充実感・達成感を持てるように体育授業を工夫する。
 ・「Bおおむね満足できる状況」に達しない児童生徒に対する個別の支援の充実を図る。
 ・一定の運動量を確保しつつ、全員参加できる「話し合い活動」や「助け合い活動」を取り入れることに加えて、「どれくらいわかった」「どれくらいできた」と実感できる「振り返り活動」を行う。

6 令和2年度の行動計画

＜市教委＞
 ○小中を通して9年間の成長がわかる個人記録カードの作成及び活用のよびかけ【新】
 ○平成31年度の課題と令和2年度アクションプランの内容の周知
 ○各校の課題をもとにした「体力向上プラン」の策定と検証における指導・助言
 ・平成31年度の評価を踏まえ、適切に策定するよう指導・助言する。
 ・学期ごとに行った検証について、工夫・改善を求める。
 ○各校の一校一実践や体力アップチャレンジの状況把握
 ・各校の課題となる運動を取り入れた一校一実践や体力アップチャレンジについて学期ごとに状況を把握する。【新】
 (国東市重点課題・小学校「上体起こし」「反復横とび」、中学校「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」)
 ○体育専科教員による訪問指導(新採用の教職員対象)【新】
 ○体育専科教員による公開授業の実施(年間2回)
 ○中学校体力向上推進校における公開授業の実施(年間1回)
 ・原則として、小・中学校いずれも各校1名以上の参加を促す。
 ○体育主任会の実施(年間2回)
 ・平成31年度の国東市の課題と令和2年度の取組について周知する。
 ・授業実践や、一校一実践の優良事例を紹介する。
 ・課題のある項目等の解決に向けた効果的な指導方法や一校一実践に関する情報交換をする。
 ・体力づくりの指導に活かせる研修を行う。 など
 ○家庭や地域における望ましい運動習慣・生活習慣を確立するための取組の企画・立案
 ・国東市医療保健課と連携して「健康チャレンジ」(8月・11月)を実施する。

＜学校＞

○小中を通して9年間の成長がわかる個人記録カードの活用【新】
 ○各校の課題をもとにした「体力向上プラン」の策定と検証
 ・平成31年度の評価と令和2年度のアクションプランを踏まえ、適切に策定する。
 ・学期ごとに検証を行い、工夫・改善していく。
 ○各校の一校一実践や体力アップチャレンジ、体育授業の工夫・改善
 ・各校の課題となる運動を取り入れた一校一実践や体力アップチャレンジを行う。
 ・運動が「あまり好きでない」「きらい」な児童生徒と体力総合評価D・Eの児童生徒を把握・分析し、該当児童生徒が充実感・達成感を持てる授業改善を行う。【新】
 ・「Bおおむね満足できる状況」に達しない児童生徒に対する個別の支援の充実を図る。
 ・一定の運動量を確保しつつ、「話し合い活動」「助け合い活動」に加えて「充実感や達成感を実感できる振り返り活動」を取り入れた体育授業を行う。【新】

○(小学校)体力向上に係る校内組織体制の確立と充実
 ①一校一実践・体力アップチャレンジ等について、体育主任が各学校の体力・運動能力等調査結果による児童の実態に即した内容で、企画・立案を行う。
 ②校内の体育保健組織や運営委員会において審議し決定する。
 ③全教職員により実施する。

○(中学校)部活動における体力向上に係る校内組織体制の確立と充実
 ①体育主任が各学校の調査結果等から生徒の実態分析をする。
 ②分析を受けて各部活動担当が所属生徒の実態に即した内容で体力アップチャレンジを実施する。

○体育専科教員・中学校体力向上推進校における公開授業への参加
 ○体育主任会への参加(年間2回)
 ○家庭や地域における望ましい運動習慣・生活習慣確立の推進
 ・「健康チャレンジ」(8月・11月)に参加する。
 ・運動習慣や生活習慣に課題のある児童生徒を把握し、学級担任や養護教諭と連携して児童生徒及び保護者に対し、学校もしくは家庭においての健康づくりのために具体的な提案を行う。

7 令和2年度の人的支援の希望内容

小学校の体育専科教員1名配置を希望
 本務校→富来小学校
 兼務校→姫島小学校

【体育専科教員の役割】
 ・本務校において体育指導(授業や運動に関する指導)及び環境整備を行う。
 ・訪問校において体育指導(授業や運動に関する指導)を行い、必要に応じて環境整備とそのアドバイスをを行う。
 ・新採用者を訪問し、体育指導(授業や運動に関する指導)を行い、必要に応じて環境整備とそのアドバイスをを行う。【新】
 ・体育授業では、主にT2をし、体育指導について他の教職員に実践を広げる。
 ・T2として授業を行う際には、T1に対して、単元計画や指導方法、話し合い活動や助け合い活動の効果的な取り入れ方などについて、指導・助言・支援等を行う。また、担当校の課題を把握した上で、課題解決のための指導方法やその他の取組を提案する。
 ・年間2回、以下のテーマで体育授業の公開を行う。
 ・「話し合い活動や助け合い活動を取り入れた、楽しい体育授業」
 ・体育主任会で実践発表を行う。

【公開授業について】
 ・原則として、各学校1名以上参加する。